

2016年8月25日

電通、伝統芸能「能」をテクノロジーで拡張する「テク能プロジェクト」を始動

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：石井 直）は、伝統芸能「能」の可能性をテクノロジーで拡張する「テク能プロジェクト」を本日付で立ち上げます。

本プロジェクトでは、現存する世界最古の舞台芸能の一つといわれる能を多様な先端テクノロジーと組み合わせ、伝統芸能としての新たな展開と、現代社会のさまざまなシーンでの活用を目指します。

能は、日本の誇る最高峰の舞台芸能の一つでありながら、わが国においてさえ客層、上演機会が限られています。また表現手法として見た場合、極めて高い国際的評価にもかかわらず、現代シーンにおける活用はほぼ見られないのが現状です。

他の伝統芸能がそうであるように、高尚で難解という能の固定観念を刷新するためには、音楽界自身の取り組みに加え、「共創」による新たな価値創造が有用となります。そのため「テク能プロジェクト」では、今後日本文化が世界からより注目されていく中で、さまざまな企業・団体・クリエイターを巻き込みながら、ビジネスシーンを含めた活用に取り組んでいきます。

具体的な活用法としては、海外訪日客を含む舞台観覧はもちろん、企業のテレビCMや動画コンテンツ、華やかで重厚なプレゼンテーションなど、多くの分野が想定されます。

プロジェクトの上演第1弾は、国立新美術館で開催されるダリ展[※]開会式での「ダリ能」になります。上演に際しては、演能団体「鍊仙会」（てっせんかい）による演能、精密機械加工を手掛ける「株式会社大槓精機」（だいしんせいき）が高精度な金属削り出しという画期的な方法で新作の能面を制作。また、最新のメディアテクノロジーを駆使したプロジェクトで注目を集めるクリエイティブ集団「ライゾマティクス アーキテクチャー」の齋藤 精一氏による映像演出も加わり、デジタル時代の幽玄美を生み出します。

ダリ能以降もテク能プロジェクトでは、「伝統芸能×テクノロジー」をテーマに日本を代表する伝統芸能の担い手やクリエイターとの共創に取り組んでいきます。

※展覧会ホームページ（ダリ展）<http://salvador-dali.jp/>

開催期間：2016年9月14日（水）～12月12日（月）

開館時間：午前10時～午後6時 毎週金曜日は午後8時まで

※但し、10月21日（金）、10月22日（土）は午後10時まで

休館日：毎週火曜日

会場：国立新美術館 企画展示室1E（東京都港区六本木）

<ダリ能上演（ダリ展開会式）概要>

概要：ダリ展開会式のオープニングに「ダリ能」を上演。ダリ自身がそうであったように、伝統と革新の融合に挑戦。伝統芸能と最新テクノロジーの融合によって生まれるパフォーマンスを初披露します。

日時：2016年9月13日（火）午後4時～

会場：国立新美術館 1階ロビー（東京都港区六本木）

※開会式は招待者のみ入場可能です。一般公開はありません。

■「テク能プロジェクト」のロゴマーク



以 上

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション室 広報部
長澤、溪 TEL：03-6216-8041

【プロジェクトに関する問い合わせ先】

株式会社電通 イベント&スペース・デザイン局 エクスペリエンス・テクノロジー部
米山、村上 TEL：03-6216-8856